

舟石川・船場地区 村政懇談会

日 時：平成28年7月5日（火） 午後7時から9時分まで

場 所：舟石川コミュニティセンター 多目的ホール

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，村長公室長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長，議会事務局長） 計10名

事務局（課長，課長補佐，係長，自治推進課職員3名） 計6名

自治会長（船場区，舟石川一区，舟石川二区） 計3名

自治会連合会（会長，事務員） 計1名

参加者：船場区10名，舟石川一区44名，舟石川二区11名，
その他52名，未記入3名

計120名

司会進行：小林 一夫

総計140名

《次第》

開会のことば

1. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
2. 舟石川・船場地区自治会長挨拶
3. 村長挨拶並びに村政の説明
4. 質疑応答
5. 舟石川・船場地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
6. 質疑応答
7. 村政に関する意見交換会（自由質問）

閉会のことば

《記録》

【4. 村長挨拶並びに村政に関する説明後の質問】

なし

【6. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答後の質問】

なし

【7. 自由質問】

舟石川一区住民：今回，村から示された広域避難計画について質問したい。小中学生の子ども達が授業中には一度学校に留め置いて，バスでもって避難させるという話にだが，避難させると言っても，前村長時代から各バス会社には運転手の派遣を断られている。それにもかかわらず，運転手の確保もできない中で，東海村にバスが集まるのか。バスはあっても運転手はいない。もうひとつは，どのような計画で取手のような県南，県西地区に避難するかということについて。ただの数合わせではないのか。公共施設がこれくらいあるから，この公共施設には何人避難させるなどといっても数多くの河川もある。前回の東日本大震災でも，肝心な高速道路は橋脚が損傷し，水戸・

舟石川・船場地区 村政懇談会

ひたちなか市内には液状化する箇所があった。完全に県南、県西地域に避難先を固定するということはどういうことか。東日本大震災では、浪江町民が福島市の方へ向かって逃げた時に、その時の風向きによって、まずは津島地区にいて大変な被爆をし、その他の情報を文科省が出さなかったために、二度目に郡山二本松の方へ逃げた時に、放射性プルームと一緒に逃げていったというようになるということ。90万、100万の人間が避難するのに、高齢者だから先に行きますよなんていうわけにはいかない。東海村民にそのような連絡がくれば、これからはスマートフォンの時代なのでそういった情報は漏れてしまう。漏れれば道路は大渋滞、大事故が起きて身動きが取れなくなるだろう。先日、取手周辺の議員と話をした。あなたはどう思うかと聞かれたので、自分はそちらの方へ避難するつもりはないと答えた。距離的にも遠すぎる。自分は、グラウンドや河川敷で、車中泊してでも1キロでも遠くへ逃げることが大事だと思っている。計画的にやるのは無理。学校で児童を留め置くにしても、学校の先生や校長先生が留められるのか。今まで色々な事故があり右往左往して皆我先に逃げてしまう。子どもを放り出して親が逃げるわけにはいかない。なので、何度も担当部署にお願いしているが、PTAや地区自治会で話し合いをして、練り合わせて作ってほしい。あれだけの地図を作ったのはご苦労だったと思うが、行政は我々住民の生命と財産を守るということが根底にある。県から国から言われたからといって、なんだかんだで作っても、実際問題として機能しないような避難マニュアルであってはしようもない。自治会、PTA、社会福祉協議会、青少年育成会議、学校関係、介護施設等と丁寧な話し合いをしてほしい。

村民生活部長：5月に説明させてもらって、今質問者から出た意見等が多く寄せられている。我々もバスの問題は大きな問題だと思っている。現在、国交省や県等とバスの手配ができるような状況を作り出せないか検討している。先程村長からも話に出たが、国、県との協議となると、東海村だけで勝手に進める話にはならないので、協議しているところである。災害時に要支援者を守ることが大事であり、元気な方はある程度自分で動けるとは思うが、そういったところも国、県等とも話をしながら進めていきたいと思っている。なぜ避難先が取手なのかというと、どうしても97万人が動かないといけない時に、東海村の勝手に私は那須に行く、などという話にはならなくて、県の方にまとめてもらったというところがある。県でも、25万人の日立市等の避難先が決まっていない状況でもあるので、ある程度は作っておかないとまらないもの。計画自体をこれですべていいとは思っていない。まずは基本ベースとなるものが必要であるということは説明会で説明したとおり。質問者から話があったとおり、色々な方とそれを直していくという方が、計画としてはいいものができると考えている。PTAや自治会とも話し合いを進めながらモノになるようなものを作っていきたい。災害は実際にどういう災害が起こるかわからないので、一つの計画が本当に有用ということにはならない。まずは同意があり、皆さんと話をし、できるだけ話し合いの中

舟石川・船場地区 村政懇談会

で作り上げた計画に近いものにしていく。また、災害時は臨機応変に行動することが大事。皆さんの安全を守るために、いかに臨機応変に情報を伝えるか等、この計画を作ってお終いではなく、話し合いながら進めていきたいと考えている。

村長：部長の答えたことが役所としての公式な答えであるが、この問題は本当に難しい問題だと思っている。でも私は、できないと言ってバンザイするわけにはいかない。今回の県の広域避難計画の策定部会の委員もやっている。そこでも様々な意見を揉んでいるし、やりだすとキリがない。県の計画がまとまらないと、東海村の計画が作れない。避難する時は、交通規制があり、県警の力もそうですし、最終的には自衛隊とか空輸機を総動員することになるので、そういった機関と調整なしに、村が勝手に計画を作れない。まず県に基本計画は作ってもらおう。それを受けて村も作るが、村もあくまで基本ケースであって、申し訳ないことだが、基本的には原子力の単独災害事故を想定した条件で今作っている。だがそれはありえなくて、実際には複合災害で、まず地震が来て原子力災害が起こるのだが、それを考えると質問者が言っていたように、高速道路が使えるのかどうかとか、家が壊れてしまって道路が塞がれてしまうとか厳しい状況が考えられる。それは十分わかっていて、色々な仮定や条件をつけざるを得ないが、その中で今考えられるのはこういうことだとして決めなければならない。当然ながらUPZの住民が先に避難するというところで、基本的にそういうことを条件で一度計画を作ってみないと、何も人は動かせないというところもある。私も拙速には進めない。もう少し検討させてもらいたい。自治会で避難訓練を行なうにしても計画がなければできないので、足りないところは見直しながらやっていきたい。私としては皆さんと話し合い、訓練を通じながら計画の基本形だけは作ってみたいと思っているのでご理解いただきたい。

舟石川一区住民：それはわかったが、2年前に避難計画を作る旨の説明会があって、地区自治会やその他の各組織、グループと話し合っ、たたき台の前のたたき台を作りますかと言って、その時の村担当者が「はい」と言っていたはずなのだが、その後出てきたのは村単独でデスクワークで作ったものであったことに違和感があったため質問した。

舟石川二区住民：(仮称)歴史と未来の交流館はすばらしいと思う。早く造ってほしいと思うのだが、完成までのタイムスケジュールを教えてください。

教育次長：今年度建物の基本設計を行い、来年度が実施設計、平成30年から2ヵ年をかけて建設し、完成という予定になっている。

舟石川一区住民：夏になると東海まつりや各地区の祭りが開催される。5、6年前は村から補助が出ていたが、今は出なくなってしまった。これは舟石川一区の祭りではなく、神社の祭りである。特に舟石川一区は神輿を出すということで頑張っている。

舟石川・船場地区 村政懇談会

今年も舟石川一区は東海村まつりに出ると決まった。東海まつりで唯一の神輿になると思う。村松の大神宮は去年から出ていない。色々な問題があると思うがその中で、村の財政が困窮しているのはわかるが、先程話に出た歴史と未来の交流館を建設する話がある中で、このような活動にも補助をいくらか出してもらいたい。

村民生活部長：行政の予算なので宗教関係の部分についてはお金を出すのは難しいと考えている。

住民：宗教じゃなく文化活動への支援をしてほしい。

村長公室長：大神宮の神輿は修理中なので去年と今年は出せないということ。

村長：5，6年前の補助は、どこから出ていたのか確認する。

船石川一区住民：村にある6つのコミセンの中で、舟石川コミセンの駐車スペースは最悪。真ん中に緑地帯があるが、我々の先輩が要望したのかサーチライトもある。できればヒマラヤ杉くらいは伐採してもらって、お金をかけなくてもいいから縁石を取ってもらって、碎石でも何でもいいから車が停めやすいようにしてもらいたい。何かあった時に、我々が緑地帯に車を誘導する際に、立木やサーチライトに接触しそうな高齢者がいる。今ある中で改良をお願いしたい。石神コミセンは第1から第3駐車場まであり、村松コミセンは広いし、子ども園の駐車場も拝借できる。中丸コミセンは小高いところに碎石で倍くらいの駐車場がある。できるならライトと大きな樹を2，3本撤去してもらいたい。今日も車を停めたい方がうろうろしていた。

村民生活部長：駐車場がないことは心配している。昨年度、コミセンの隣の土地の所有者が「入口辺りの畑なら貸しても良い。」と言っているという話を聞き、私も所有者の方に話を聞いたら、その様な気持ちがあると返事をもらった。他のコミセンも駐車場が狭いという指摘がきており、5月に説明した避難計画もある。舟石川コミセンに要支援者が集まったときにバスがどこから入ってくるんだという話になった時に入り口が狭いということも鑑み、今庁内で避難計画に合わせてコミセンの整備について見直している。

船場区住民：役場でISOの14000というシリーズを取得していたが、成果と今後について公表されていないと感じている。回答いただきたい。

村民生活部長：ISOの14001は更新審査を含め3度の更新を行い、12年ISOで様々な環境政策にあたった。東海村はISOに関する意識が深まり、あまり効果がなくなってきた。ISOは、CO2削減の取組みから、業務改善に移行してきている。村としては事業の見直し等は別のところでやっており、環境自治体会議というところと環境に関して色々やっているのだが、それは住民の皆さんに東海村の環境の状況についてみてもらうというようなことをやっている。同じようなことをISOでやっているなということで、統合したほうが良いという事で、今年で脱退させてもらった。今は

舟石川・船場地区 村政懇談会

住民の皆さんに見てもらって評価を受けるような ISO に変わる新たな環境施策ということで取り組んでいる。

舟石川一区住民：昨年度も要望したが、この舟石川コミセンのホールの増築をお願いしたい。東海村の体育館があるから狭くてもいいだろうと当時考えて作ったみたいだが、1 スパンだけでもいいから広げてもらいたい。

村民生活部長：なかなか難しい。公共施設の見直しを行なっているところではあるが、色々な施設を抱えているので、これから村として施設を維持していくのにどれくらいお金がかかって、どういった形で維持していくかを考えているが、そこに増築は入っていない。ただし、施設の使い勝手等についても考えていかなければならないというところで、今の意見も反映していけたらと思うが、いつになるかと言われれば検討しますとしか答えられない。

船場区住民：集会所の耐用年数は35年くらいと聞いているが、コミセンの耐用年数はどれくらいか。

村民生活部長：税法上は41年だったかと思う。正確には答えられないが、建物を建てるときに設計の中で60年を目標にして建てるということで設計はしているはず。すぐには答えられない。本日回答できなかったものについては、後日追跡調査し、村のホームページやコミュニティセンターに掲示するので、そちらで確認してもらいたい。

舟石川一区住民：自治会加入率の問題。自治推進課で何かやっていると言うのは聞かすが、一向に上がらない。抜けた人や加入しない人の話を聞くと、魅力が無いというのがひとつある。何のためにやるのか、我々もなかなか建前論でしか説得できない。以前自治会連合会で土浦に見学に行き、その時の話を聞くと、向こうの加入率は80%だったと聞いた。東海村とどこが違うのか。どういったやり方がいいのか。これは行政と我々の両方で考えていかないとだめ。私は福祉関係をやっているが、10年後どうなるのか。東海村は個人の意見を聞いて、全体の意見を聞かずガタガタになってしまうのではないかと心配している。

村長：私も就任当初から、担い手不足ということで、人づくりをしないととって3年経つけれど何もできていない。本当に難しく、色々と考えてはいるが、具体的施策は思いついていない。他の地区でも言われているが、関心が薄くなってしまっている。災害が起きたときに、本当に近所や自治会の大切さをわかったとは思いますが、5年も過ぎて、そういった意識がなくなって、入っている意味がない、広報誌もちゃんと入ってくるし、ごみも捨てられる。じゃあ他に何かあるのかと聞かれてしまう。やはり助け合いです、と言っても響かない。中丸でも言ったが、メリットを出して、入っ

舟石川・船場地区 村政懇談会

た方が得だよというようにしないとダメなのかなと思う。例えば自治会に入って何かをすると、ポイントが溜まって買い物に使えるなど、そういう風にして差別化をしなければ入らない。やりたいとは思っているのだが、役場内で仕組みをつくるのが悩みである。あまり行政主導でやりすぎると差別になる。誘導するための一つの施策としては良いと思う。メリットを強調して得だと思わせないと、単に助け合いの精神だとか、精神論を振りかざしてもおそらく若い人には響かない。あとは、学校の繋がりとか PTA とか何とかやってくれているが、本当のことを言うとやりたくない人も多いと思う。今回学童クラブは指定管理者で民間会社に任せたが、子どもを預けたいという人がどっと増えた。今まで各保護者の会に運営をお願いしていたのを、村が、保護者の会が大変だろうからということで民間会社をお願いしたら、恐らく役員をやらなくていいということで、子どもを預けたいという人が増えた。これはこれで、どうしても昼間働いているお母さんたちがいるということで、それは保育所の延長だからやむを得ないと思うけれど、本当に自治会とか福祉とか環境とか純粋なボランティアとなっている皆さんの後継者を作るにはそういうことを考えなくてはいけない。今はポイント制みたいなものしかない。どこかをモデルにやってみようかとは思っている。

舟石川一区住民：私はここ12、13年アクティブライフジャパンというのをやっている。全国組織で2万8千人くらい。私が所属しているのが、水戸、ひたちなか、那珂、東海で会員数は大体880人くらい。1時間ボランティアをやると、1点という形で本部のコンピュータに登録される。例えば自分の身体が弱くなった時等に、介護補助とかがきっちりできていて、アメリカ、イギリス、イタリア、その他に姉妹組織もできている。大元はラルフ・ネーダーから始まったもの。そういったものを参考にしてほしい。

舟石川一区住民：地区社協やっているが、役員会でポイント制が大体決まり、予算を積算しているので、それができれば、いよいよ役場へ話しに行こうかと考えている。その時はよろしくお願ひしたい。

舟石川二区住民：先ほど自治会に加入する人が少ないと言っていたが、自治会に入ると、うちの常会だと3,000円払う。寄付とかも合わせて3,000円で、今は行事等が少ないので事足りる。葬儀や入院が出ると少しオーバーする。結局自治会に入るということは3,000円を払うということ。それをなくしたらもっと入るのではないか。自治会費をなくしたらあとは寄付なので、700円を村で支援してくれれば、自治会に入る人が増えるのでは。タダで自治会の色々なサービスが受けられるといえ、もうちょっと入ってくるのではないか。こういうことを言うとお金が無いと言う。お金なんていくらでもつくれる。村会議員を一人減らせばいい。その辺を村長の英断

舟石川・船場地区 村政懇談会

で決めてもらって、自治会費は一切いらない、年末の寄付は回覧に書いた人だけ集金してそこに出すようにしたらどうだろう。

村長：自治会費のほかに恐らく、社協の社資、村民会議支部の会費、共同募金や歳末が色々入って、まとめて徴収していると思う。内訳はあるのだろうが、自治会費として一緒になっていて、負担感が大きい。自治会は自主的な活動で、今回は交付金になっているが、補助金を出しているものの、自治会がいくら集めているかは関知しない。交付金として一定の活動に対して支援している。自治会によって会費の差はあると思う。募金については、実質的には会費のように集めていると思う。村から補助金も出しているが、社会福祉協議会も社資が財源となっていて、そういったお金が自主財源として必要で、皆さんに支えてもらっているのも事実である。村民会議支部も支部の行事を行なう時も、支部の管内の自治会の皆さんの会員費が活動費になっていて、皆さんに支えてもらっている。確かに、自治会に入っている人はあちこち支えていて、入っていない人は何も支えないで、参加だけしてズルいというのがあると思うのだが、そこを崩してしまうと、本来の自治会や各種団体の活動がどうなのかなと思う。元々皆さんが築いてきた今までの理念というようなものを大事にしたいので、ここはなんとかぎりぎりのところは守ってほしい。そういう一定の負担をしても、入った方が得だというようなことは考えるので、皆さん身体で奉仕いただいているが、お金の部分で活動団体の活動を支援していただいているところは崩したくない。皆さんにお願いするばかりではなく、役場でできることは考えていくので引き続きご協力をお願いします。

舟石川一区住民：村長の回答について気になることがあったので質問する。先ほど村長は、学童の委託化で子どもが増加したとプラス面を話していた。私はあの時反対の署名を集めた。なぜかと言えば、今日配布された資料にもある通り、村の色々な計画が連携協働を大きく謳っている。保護者の活動は大変かもしれないが、行政が後押ししてやるのが協働ではないか。今回変わったことによって多くの学童がそちらへなびいた。結果はいい方向だと言っていたが、実質の子供の活動内容は子供の喜ぶ姿になったのだろうか。今までプールで遊んでいたが、そういうことができるようになったのか。もう少し長い目で見てもらって、方向付けをしてほしい。協働という言葉が村の基本姿勢に良く出ているのはいいことだと思う。そのためにも行政と住民が手を取り合う姿勢が必要だと思う。今の状況だと、上から目線としか思えない。

村長：今まで保護者の会でやってもらっていた。それで充実していた部分も確かにあった。今回の委託化によって、活動に制限がでてきた部分はある。それは、民間会社をお願いして、責任ある活動運営をするために、一定程度の制限はやっぱりかかる。今回委託化に向けたのは、保育所までは、保育所があることで働けている方々が預けることができるが、子どもが小学校へ入学すると、なかなか受け皿がなかった。村に

舟石川・船場地区 村政懇談会

は学童はあったが、運営面が難しかった。実際には指導員の雇用等から、一クラブでかなりのお金を動かすということで、会計上のミスがあってはダメだし、きちんとしなくてはいけないということだった。負担軽減の意味もあったが、国からの補助金をもらっていて、それをきちんと処理するところで、言い方は良くないが素人の方が、毎年変わる中で、きちんと処理ができるのか、また、安全管理上問題があった時に、その親御さんに責任を取らせるのかということ、そこは非常に難しいところがあったからである。なので、そこはきちんとした運営ノウハウを持っていて、会社として体制が整っているところをお願いしたということが経緯で、すべて住民の負担を軽減させてということだと、やっぱり逆行するので、一定の負担は住民にももらわなければならないと、そこはリスク回避も含めて、総合的に判断してやっていきたいと思っている。今回の事例は中身を検証しながら、直せるところは直していきたい。

舟石川一区住民：文化センターへ向かう途中の陸橋について。あそこは一段高くなった歩道が一箇所しかない。学童の話に関連するのだが、舟石川小学校の学童に入りきれない子どもと学童がやっている時間から延長してやってもらいたい子どもがその陸橋を越えて、東海南中の近くの学童まで行っている。度々見かけているのだが、緑のラインはあるが、一段高くなった歩道が無いので非常に危ない。私は青少年相談員をやっていて、学校訪問に行くたびに、舟石川小学校の先生方に危ないと話しはしているけれど、学童に行く途中の話なので、「うーん」としか回答が返ってこない。あの道を危なくないように改善してもらいたい。

建設農政部長：以前にも話があり調査をした。あそこを歩くのであれば、階段を歩けば車道には出ないようになっている。

教育長：昨年話題に出て、私も現場を見た。下を通って、階段を上って東海会館のほうへ向かいチューリップ学童に通っている。左側が崖になっていて、変質者が出たときに逃げ場がないということで、そちらよりは陸橋のほうが安全だろうという形で行っている。1、2年生が多いので、学童に行く時は先生方に付いて行ってもらって、途中で学童クラブの指導員の方に来てもらって、引渡しの形を練習している。そういった形でチューリップ保育園の方に行ってもらっている。安全性を考えたら下よりも上だろうということで今のところやっている。

舟石川一区住民：段差やポールの検討をお願いしたい。

建設農政部長：検討する。

舟石川一区住民：平成29、30年に駅西を大きく変えるということで、自転車専用道路を作るという話を聞いた。また、駅西に交番ができると聞いたが、場所はどの辺りで、いつ頃から実施されるのか説明してほしい。

建設農政部長：舟石川・船場地区のみづくり検討委員会で説明させてもらったが、こ

舟石川・船場地区 村政懇談会

こでも簡単に説明する。国体を迎えるにあたって、駅西の広場は都市計画決定をして40年近く経過しているところで、当初の計画と状況が大きく変わっている。当初はバスが茨城交通とか日立電鉄等、4台ほど予想されていたが、今は茨城交通の1台だけである。また、計画交通が駅西大通りは4車線であった。それは1万台以上という予測で4車線にしたわけだが、現在調査したところ、将来計画も含めて5千台であるということだった。そうすると4車線はいらず、片側一車線で良いとのことだった。そういったことを含め、変更を考えたところである。そして、どのように駅西の広場を造るかという、通過交通は駅の中に入らないような形で考える。交番は、勝田側に駐輪場があるが、そこに交番が今年度できる予定になっている。現在、設計が始まっており、遅れるかもしれないが、10月くらいに着工できればと聞いている。今コインパーキングがあるところはタクシーの駐車帯になる。また、コインパーキングは交番の脇へ移設される。こういったことで来年度と再来年度で工事をする予定である。しばらくの間迷惑をかけると思うが、ご協力をお願いしたい。それと、日立東海線について、ラーメン屋までは中央分離帯をなくし、縁石などの工作物は置かず、色分けするような形で2メートルの自転車レーンを造るという計画になっている。ラーメン屋から先は、自転車レーンは造るが、将来はなくす予定だが中央分離帯はそのままで、歩道は3.5メートルのまま、自転車レーンは2メートルということで、マラソン通りまで考えている。マラソン通りからは笠松運動公園までは、特別はいじらないが、歩道と車道の間が一部駐車帯として1.5メートルほどあいている所があるので、そこについては、1メートル色を塗り、自転車レーンを造って、駅から笠松運動公園まで自転車で行ける様な形で考えていきたい。

舟石川二区住民：先程の陸橋の話の結論が出ていない。2、3年前に船場か舟石川一区から同じような要求が出た。その後あの場所を通る度に危ないと思う。雑草も生えている。2、3年前の要求がまったく聞かれていない。自分の子どもが通ってきた時に、車が少しでも左に振れたら、子どもを撥ねてしまうだろうと思う。何かしないと危ない。特に朝の時間帯に現場に行ってみるといいかもしれない。

建設農政部：以前質問があり、学校教育課と一緒に立ってみて、迎えに来るということで、安全だと判断した。現場はわかっており、緑のラインは当初自転車のために造ったラインである。当然歩道は、人が階段を登って行って、歩道を通り、降りていくというものだった。

舟石川二区住民：それなら歩行者は通すべきではない。

建設農政部長：当初はそういう計画で、常磐線の上の部分はきちんと段差になっている。ただ、そうはいつでも通ってしまうということであれば考えなくてはならないが、緑の部分はとても狭いので、何か手を加えてしまうと、自転車との競合があり、なかなか難しい部分がある。

舟石川・船場地区 村政懇談会

教育長：私も何回もその場所を通っており、質問者が言うことも重々わかる。この話は、現場を見てきた上で、学校とチューリップ保育園の学童クラブの先生と、先程話したように、下を通っていった時に左側が法面になっているので、変質者が出たときに危ないということで、それであれば陸橋を通っていった方が何かあった時に車も通っているし、安全ではないかということになった。それで舟石川小学校の先生が低学年の子は連れて行って、向こうの指導員にも来てもらうというような訓練をやっている。今話を聞いていて、段差があったほうが安全なので、そういったことは検討していく。現場に行っていないようなことはない。

舟石川二区住民：あそこは学童に通う子だけが通るわけではない。普通の子どももあそこを歩いていいと思って通って行く。だから、学校の先生がいるから大丈夫ということではない。

教育長：絶対安全だと言っている訳ではなく、そういった訓練をしながら、最善の方法を考えていきたいと思っている。

舟石川一区住民：ぜひ実行に移してもらいたい。学校の先生が学童の先生に引き渡すと言っていたが、その姿を一度も見ることがない。学校の先生に危ないと言っても「そうですね」としか返されない。

教育長：4月当初にはやっ払いこうと取り組んで、4月当初はやっていた。もう一回学校に確かめる。舟石川小学校の先生が無責任な発言をしていたのであれば、指導していく。

舟石川一区住民：舟石川小学校と東海南中学校が東と西で平らな歩道で繋がれば解決すると思う。長い目で見て検討をお願いしたい。

以上